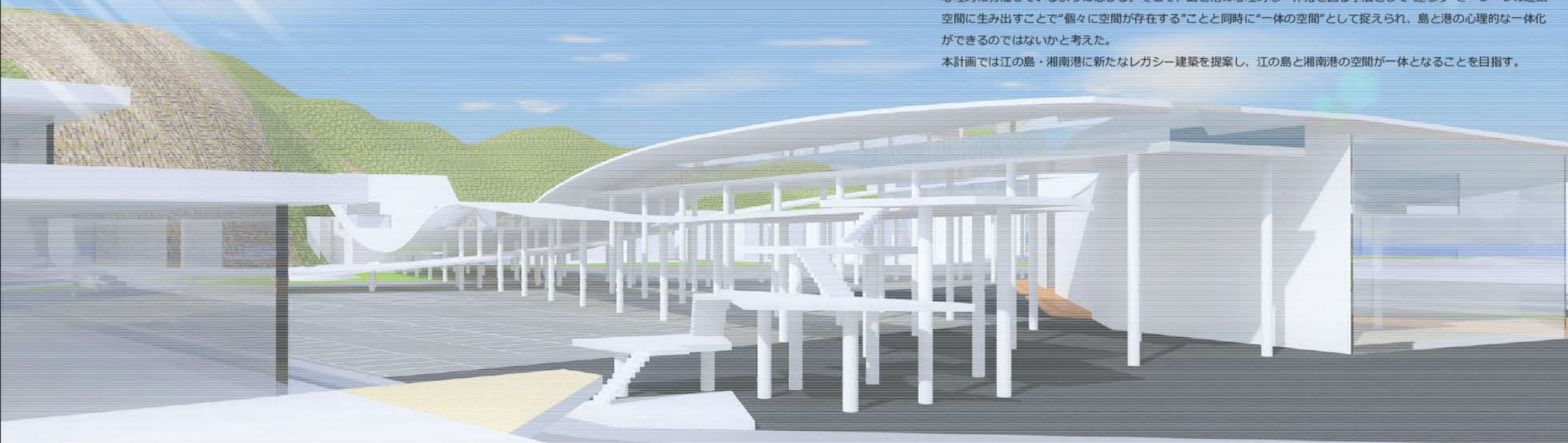


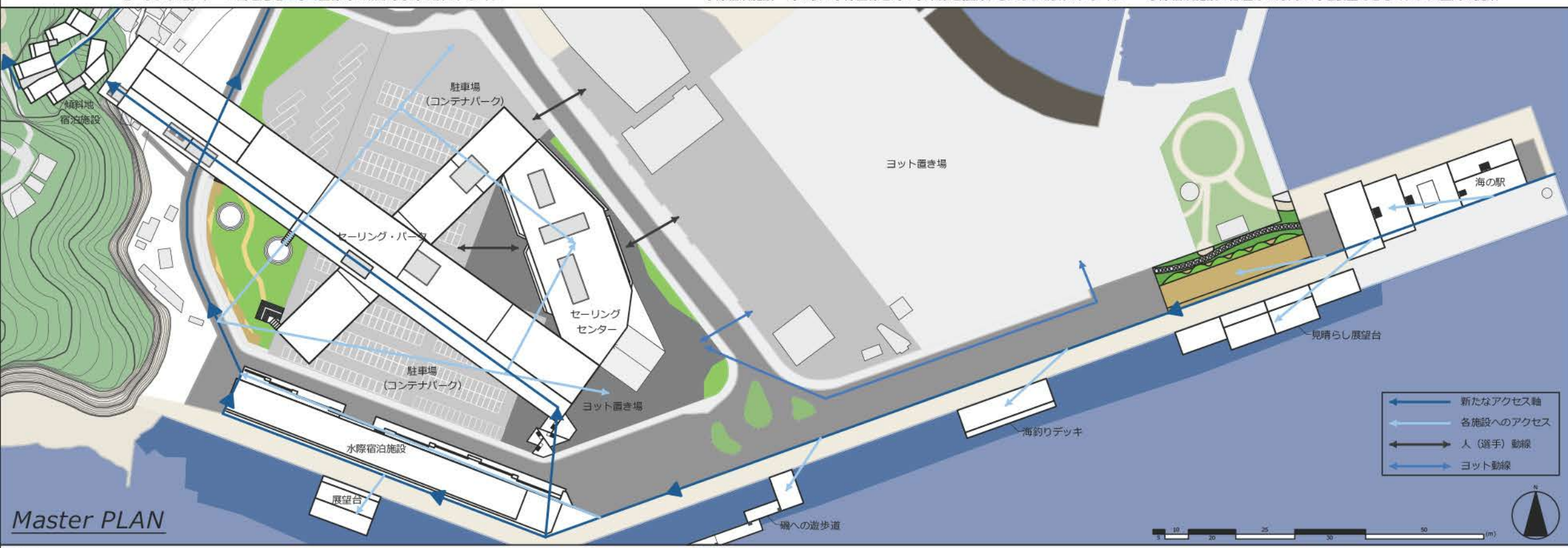
# 連なりあう空間 - 港を中心としたオリンピックレガシーの提案 -

2020年東京オリンピックのセーリング会場に予定されている神奈川県藤沢市江の島・湘南港。江の島は1964年のオリンピックレガシーの湘南港により飛躍的に発展した経緯がある。しかし、レガシーである人工的なヨットハーバーの湘南港と、自然豊かな観光地の江の島は物理的に一体であるが心理的に分離しているように感じる。そこで、島と港の心理的な一体化を図る手法として「連なり」を一つの建築空間に生み出すことで「個々に空間が存在することと同時に「一体の空間」として捉えられ、島と港の心理的な一体化ができるのではないかと考えた。

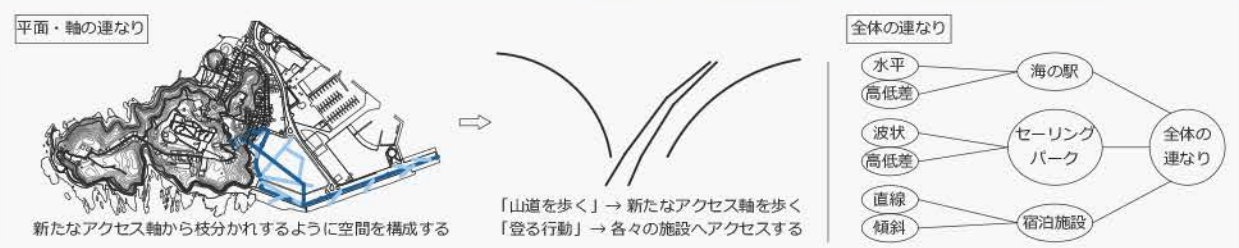
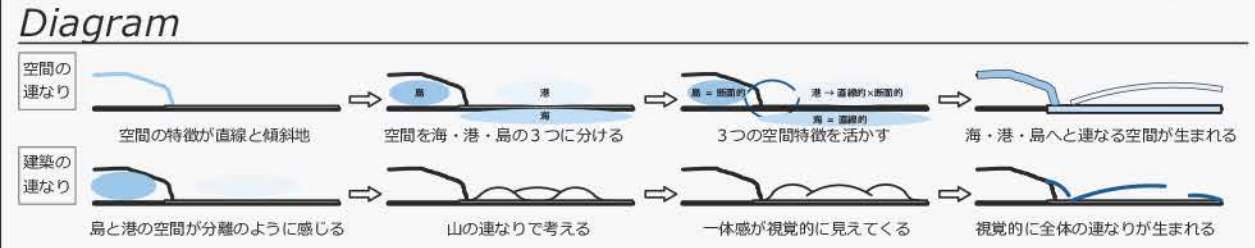
本計画では江の島・湘南港に新たなレガシー建築を提案し、江の島と湘南港の空間が一体となることを目指す。



セーリングセンター：島と港をつなぐ直線的×断面的な海の波のデザイン  
 水際宿泊施設・海の駅：水際直線と海の水平線を強調するスラブ構成のデザイン  
 水際宿泊施設の部屋は2方向の海を展望できるオアシス空間の提案



## Master PLAN

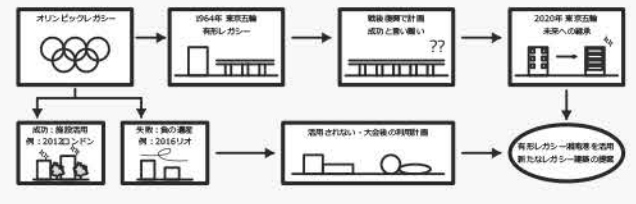


## 1. 背景 - オリンピックレガシー -

現代ではオリンピック（以下、五輪）開催を契機にレガシーとして開催国の後世に遺していく「オリンピックレガシー」の概念が存在する。

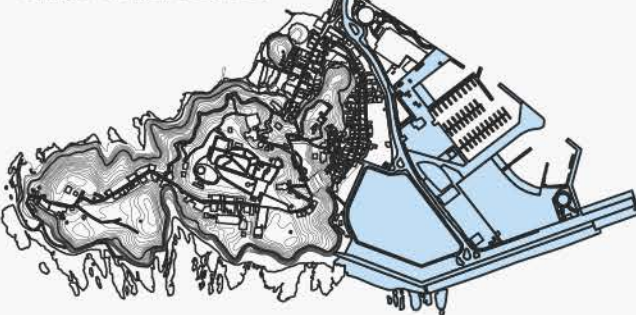
1964年東京五輪では多くの競技施設や交通機関が計画され、現在でも利用が続き有形レガシーとなった。しかし、有形レガシーの大会後の利用やその土地の特徴から考えると成功したとは言えないように感じる。

2016年リオ五輪のように、五輪目的で計画された施設が大会後には活用されずに負の遺産となっていることも珍しくない。2020年東京五輪が持続的効果をもたらすためにレガシーの創出が必要であり、今後建築される五輪施設について将来に渡っての活用方法の提案が必要だといえる。



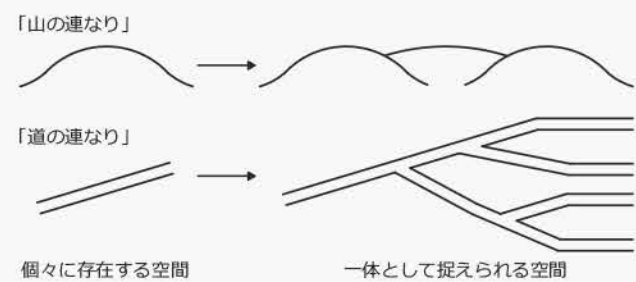
## 2. 敷地 - 神奈川県藤沢市江の島・湘南港 -

2020年東京五輪・セーリング会場に予定されている、神奈川県藤沢市江の島湘南港を敷地に設定した。江の島は1964年東京五輪でヨット競技を実施した際に有形レガシーの「湘南港」により失われた自然と引き換えに飛躍的に発展した経緯がある。また、自然豊かな江の島と人工的なヨットハーバーの湘南港は物理的に一体であるが、心理的に分離しているように感じる。要因としては、観光客が多く訪れる江の島に対して、湘南港は駐車場・ヨットハーバー利用のため空間が無機質であることが考えられる。そこで、島と港の空間が一体となることを目標に、有形レガシーの湘南港を活用した建築空間を考える。



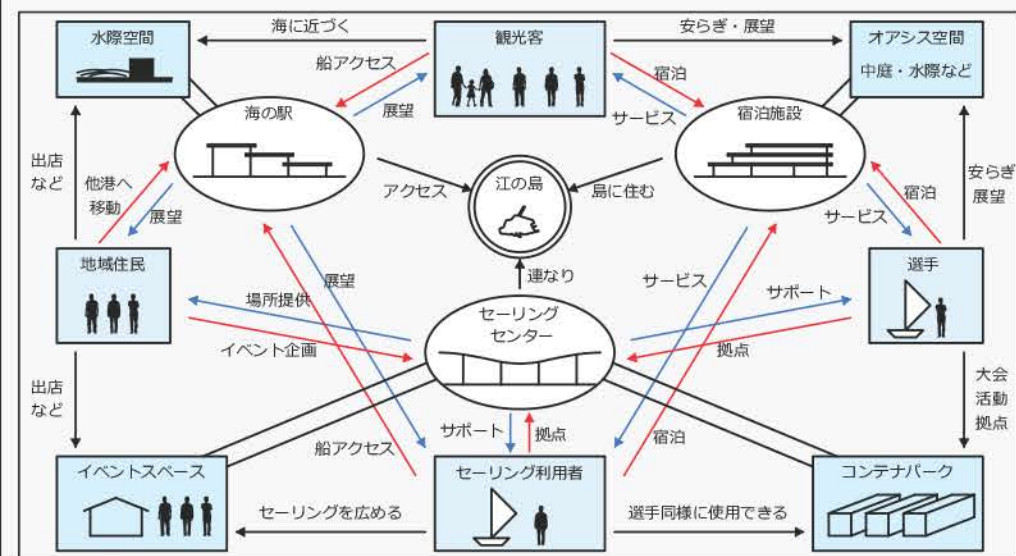
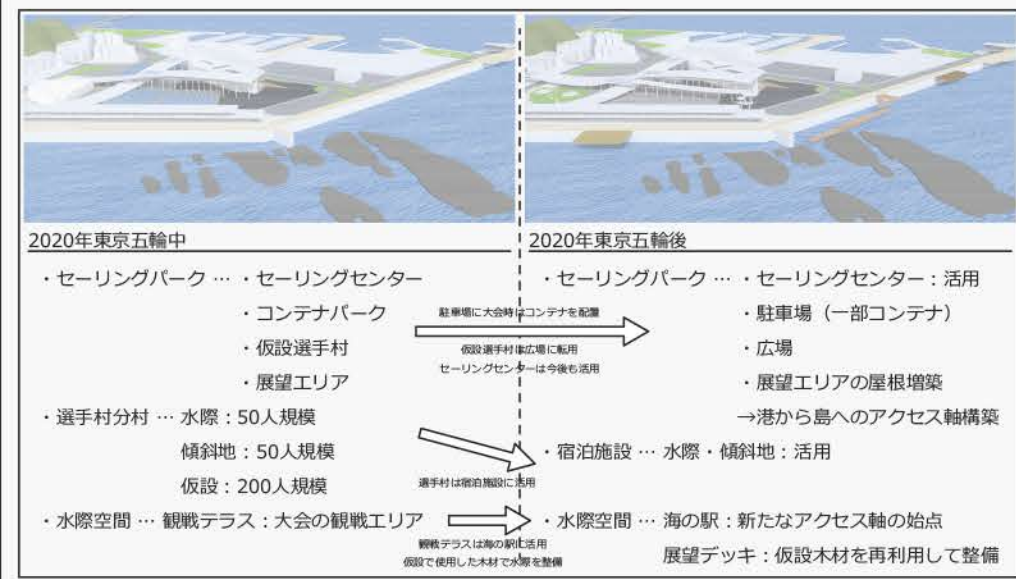
## 3. 提案 - 目標とする空間・空間構成 -

江の島と湘南港の心理的な一体化を図る手法として、「連なり」から建築空間を考える。山や道の連なりのように「個々に空間が存在している」と同時に「一つの空間が連なっている」ことで、その場所を「一体の空間」として捉えることもできる。そこで、一つの建築空間に「連なり」を生み出すことで、島と港の心理的な一体化ができるのではないかと考えた。江の島の空間は周囲が海に囲われていること、埋立地のヨットハーバー、山を歩き登る島の3つが特徴的である。そこで江の島に海から始まり港、島へと、「連なりあう空間」としてつなぐことで心理的な一体化を図る。

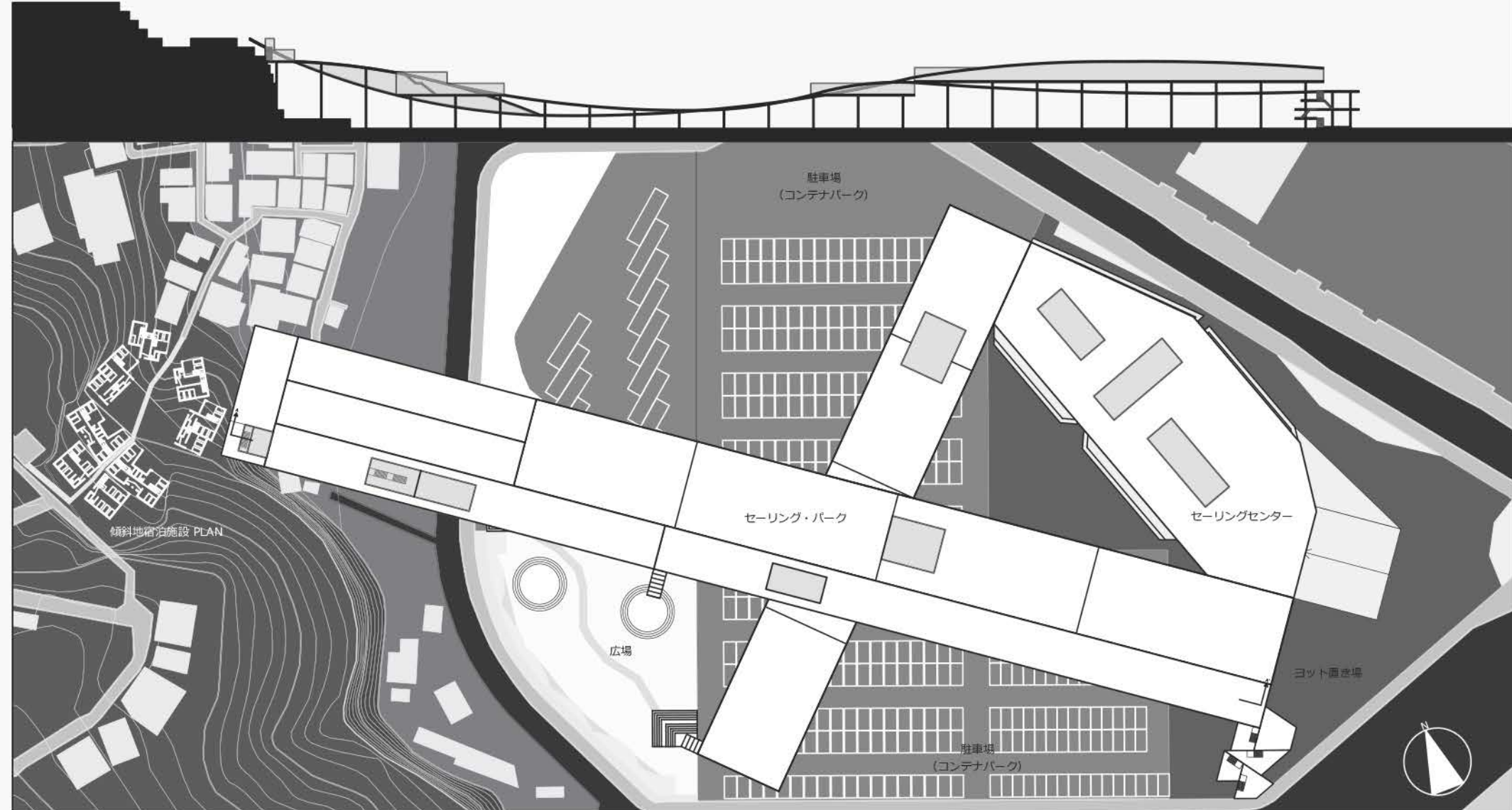


- 海：水平線×直線的 → 海は水平線が直線的に続く → 海と港の「水際」を直線的な空間
- 島：傾斜地×断面的 → 島は傾斜地を活かす断面的な空間
- 港：直線的×断面的 → 港は断面的な島への入口 → 直線的から断面的へ連なる空間

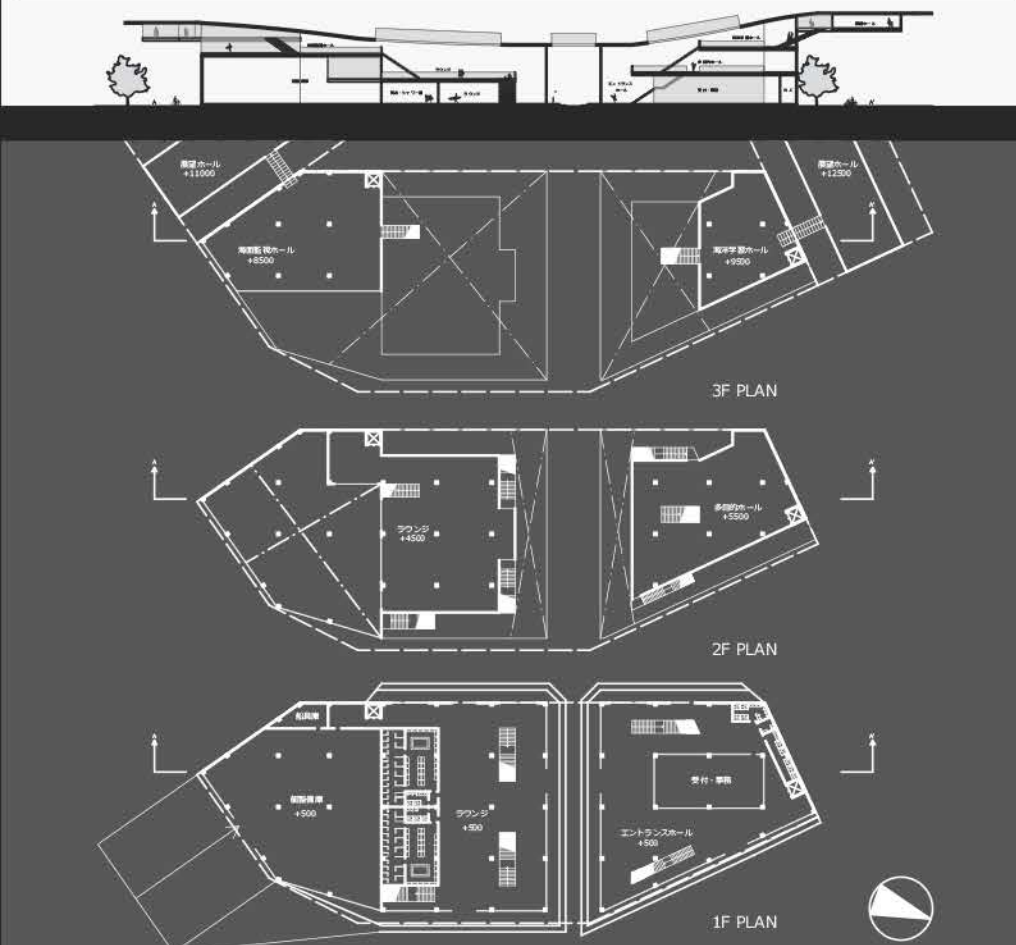
#### 4. 計画内容 - 五輪中・五輪後の提案 -



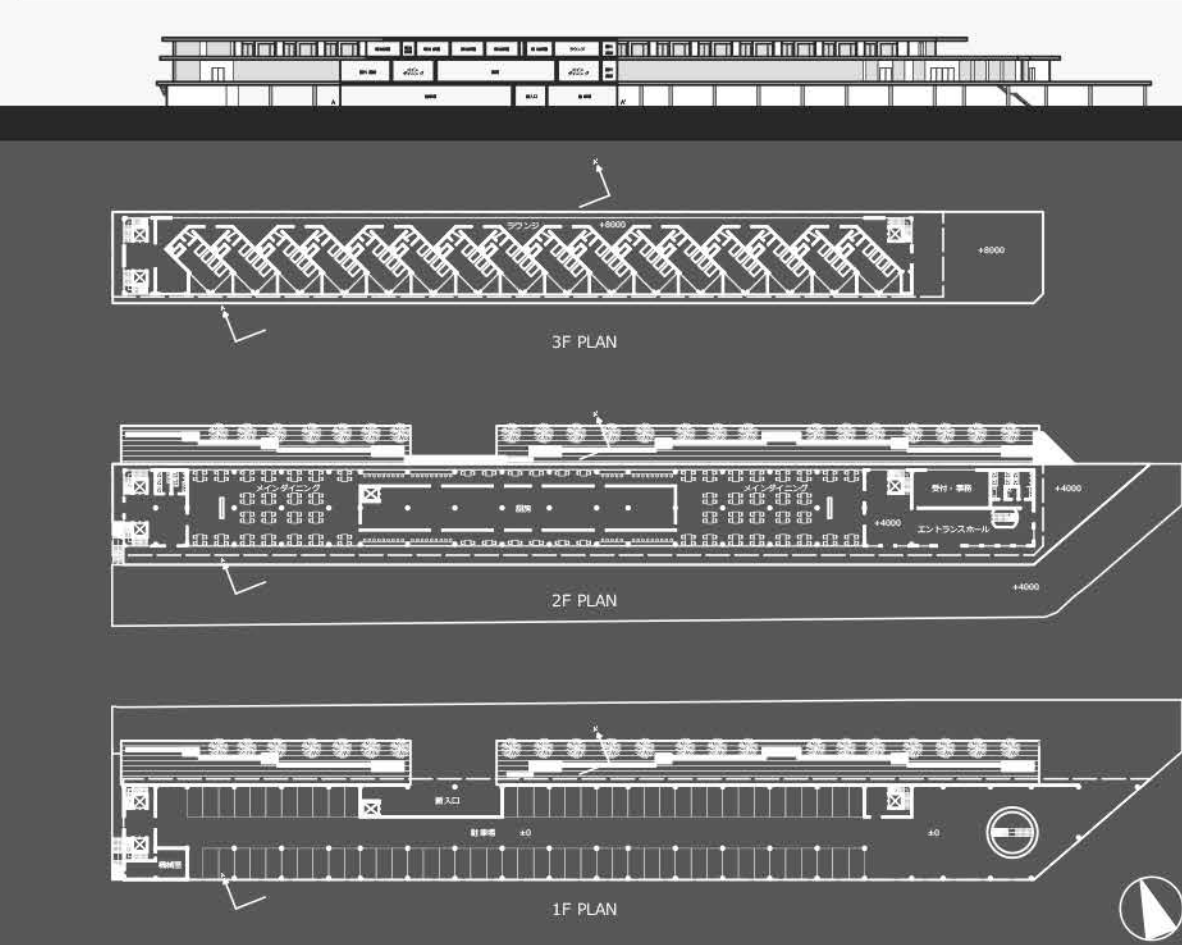
#### 5. セーリングパーク・傾斜地宿泊施設 - 配置図・平面図・断面図 -



#### 6. セーリングセンター - 平面図・断面図 -



#### 7. 水際宿泊施設 - 平面図・断面図 -



#### 8. 海の駅 - 平面図・断面図 -

